



発行：山形大学医学部附属病院

2017 spring

## キャンサートリートメントボード導入から 10年目を迎えたことを記念して シンポジウムを開催しました



シンポジウム会場の様子

平成29年2月27日（月）山形大学医学部大講義室において、山形大学蔵王協議会主催によるシンポジウム「キャンサートリートメントボード導入から10年目を迎えて—山形県内での普及を目指して—」を開催しました。

山形大学医学部附属病院では、複数の診療科の医師に加え、看護師、薬剤師、放射線技師などの多職種が一堂に会してがん患者の治療方針を議論する「キャンサートリートメントボード（以下、「CTB」）」を平成19年9月に開始してか

ら10年目を迎えました。本院では、現在、14のがん種に対応したボードを年間200回以上開催しており、年間延べ5,000名を超えるスタッフが参加し、適切な治療方針の決定に重要な役割を果たしています。そこで、この取組を全般的に普及させることは、がん患者にとって大きな利益となると思い、更なる普及・情報発信のために、このたびシンポジウムの開催を企画いたしました。

シンポジウムでは、最初にCTBの立ち上げに尽力された根本建二病院長ほか2名の医師による基調講演が行われた後

に、嘉山孝正蔵王協議会会长を座長として、本院の6名の医師をパネリストとしてパネルディスカッションが行われました。当日は、平日の夕方にも関わらず、山形大学蔵王協議会加盟機関の医療関係者、本学医学部医学科の学生など400名を超す出席者がおり、皆さん熱心に耳を傾けていました。

また、シンポジウム開始に先立ち、実際に行われているCTBの公開も行い、



パネルディスカッションの様子

### 【当日のプログラム】

#### 第1部 キャンサートリートメントボードの状況について

- 「CTBの立ち上げから仕組みとその効果」  
山形大学医学部附属病院長 根本 建二
- 「多職種CTBの放射線治療に及ぼす影響」  
山形大学医学部放射線腫瘍学講座助教 市川真由美
- 「化学療法の治療方針にCTBが及ぼす影響」  
山形大学医学部附属病院腫瘍内科医員 中村 翔

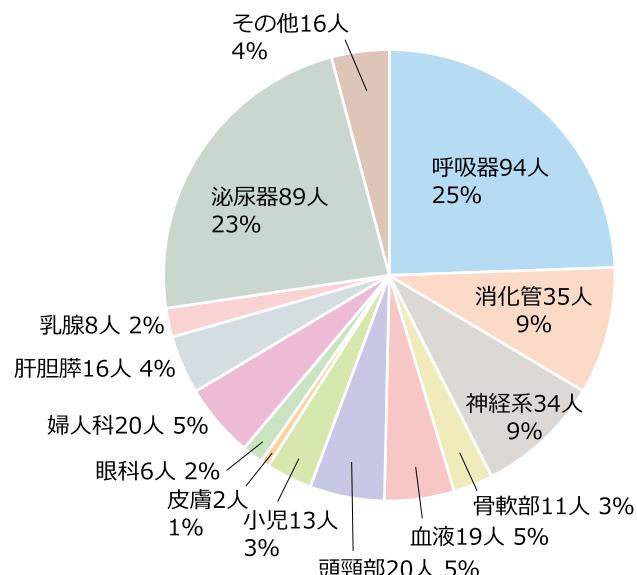
#### 第2部 パネルディスカッション

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| 座 長／山形大学蔵王協議会会长     | 嘉山 孝正 |
| パネリスト／山形大学医学部附属病院長  | 根本 建二 |
| 山形大学医学部臨床腫瘍学講座教授    | 吉岡 孝志 |
| 山形大学医学部附属病院第一外科病院教授 | 蜂谷 修  |
| 山形大学医学部附属病院第一内科助教   | 井上 純人 |
| 山形大学医学部附属病院疼痛緩和医療部長 | 山川真由美 |
| 山形大学医学部附属病院放射線診断科講師 | 鹿戸 将史 |

# た取組について



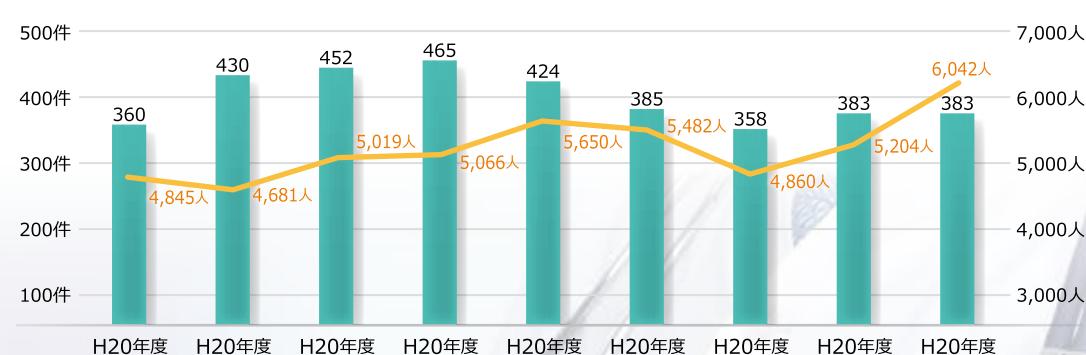
平成28年度の症例数



## CTBの現況について

毎年、約400の症例についてCTBで検討しています。平成28年度は、呼吸器及び泌尿器の症例が全体の半分を占めました。CTBには年間平均して約5,000人が参加していますが、平成28年度には初めて6,000人の大台に達しました。

## CTB症例数及び参加人数



## CTBの成果について

キャンサーツリートメントボードの成果について、国際的学術雑誌に発表しています。

①Influence of a multidisciplinary cancer board on treatment decisions (Int J Clin Oncol. 2013)

「32%の患者さんの治療方針に何らからの変更・追加検査がすすめられた」

②Status of radiotherapy in a multidisciplinary cancer board (J Radiat Res. 2014)

「71%で放射線治療が推奨された。また、放射線治療に関して予定外の施行、中止が約5%あった」

③The Role of Cancer Boards in the Treatment Decisions Regarding Chemotherapy (Intern Med, 2016)

「山形大学医学部附属病院で診療を受けているがん患者の約2割がキャンサーボードで複数の専門家による討議が行われており、腫瘍内科医は薬物療法を主導していた。これは、各症例に最適な治療が提供されることに貢献していることが示唆された」



# CTB推進に向け

CTBの山形県内外での更なる普及に向けて



<http://www1.id.yamagata-u.ac.jp/MIDINFO/news1/ctb-movie.html>

このたび、キャンサートリートメントボード導入から10年目を迎える、山形県内外での更なるキャンサーボードの普及のために紹介動画を作成し、本院ホームページ上で公開するとともに、全国のがん診療連携拠点病院にDVDを送付しました。キャンサーボードの推進に取り組まれている医療関係者の皆様にご高覧いただければと思います。



## キャンサーボード設置の経緯（嘉山参与コメント）

21世紀に入って、先進医療がすごく発達した。各病気の治療法の窓の幅が広がったものの、医師各々の専門分野によって、治療の選択肢が限られていた。学際的な治療をするといっても、実はやっていない。そのためには、同じ場所、同じ時間に集まって議論しなければ意味がない。方法論がたくさんあっても、このようなボードをやらなければ学際的じゃない。



概要説明の一コマ



## 今後の展望（根本病院長コメント）

公の場で医師たちが治療の良いところ・悪いところを検討し、最善の治療を患者さんに提案できるのは良い仕組みである。また、本院が人を育てる機関でもあるので、教育の場として更なる充実を図っていきたい。しかし、良い仕組みだが、どこの病院でもやっているわけではない。病院が責任をもって治療方針を決めるんだというこの仕組みを県内、そして全国に拡げていくことが重要である。是非、他の病院でも取り入れていただきたい。





# ドに関する取組

ンバウンドを推進するための体制整備として、山形県や山形市との連携協定の締結、流推進協議会の設立を行うとともに、院内の国際化対応の取組を進めました。



## 「健康医療先進都市」を目指す山形市と包括連携に関する協定を締結。

平成28年10月31日(月)、山形市役所において、「健康医療先進都市」を目指す山形市と山形大学医学部との包括連携に関する協定の締結式が行われました。



協定締結後の記念撮影

本協定は、山形市と山形大学医学部が相互に連携を図り、双方の保有する資源を有効に活用することにより、山形市が目指す世界に誇る健康・安心のまち「健康医療先進都市」の実現に資することを目的としております。

具体的には、以下の3つの事項について相互に連携及び協力してまいります。

- (1)「健康医療先進都市」推進のための効果的施策に関すること。
- (2)外国人観光客等の疾病に対応できる医療提供体制や先端医療に関わる海外からの患者受入など、山形市の医療の国際化に関すること。
- (3)山形市の疾病構造の現状分析と将来予測等に関すること。

当日は、山形市側から佐藤孝弘市長、庄司新一企画調整部長及び伊藤浩之企画調整課長、並びに山形大学医学部から嘉山孝正参与、山下英俊医学部長及び根本建二病院長が出席し、協定書の締結が行われました。



## 山形県と最先端医療及び医療の国際化に係る連携・協力に関する協定を締結。

平成28年4月28日(金)、山形県庁において、山形県と山形大学医学部は、最先端医療及び医療の国際化に係る連携・協力に関する協定を締結しました。



協定締結式の様子  
(右から阿彦医療統括監、中山健康福祉部長、吉村知事、嘉山参与、山下医学部長、根本病院長)

本協定は、日本の医療のモデルとなる最先端医療の構築や医療人材の育成等について調査研究を行い、県民医療の充実方策及び国際化を踏まえた産業振興について、全国に先駆けた取組を推進するため、山形県と山形大学医学部が連携し協力することを目的としております。

具体的には、以下の4つの事項について、連携・協力を進めてまいります。

- (1)コホート研究の充実及び研究機関や企業との連携による、新たな治療法や治療薬等の開発及び健康寿命を伸ばすための効果的施策(脳卒中予防、がん予防等)のあり方に関すること。
- (2)健康寿命の延伸に向けた課題解決のための医療人材の育成確保及び効果的な活用に関すること。
- (3)外国人観光客等の疾病に対応できる医療提供体制や先端医療に関わる海外からの患者受け入れなど、本県医療の国際化のあり方に関すること。
- (4)県民の疾病構造の現状分析と将来予測、及び健康寿命延伸の促進策に関すること。

当日は、山形県側から吉村美栄子 知事、中山順子 健康福祉部長及び阿彦忠之 健康福祉部医療統括監、並びに山形大学医学部から嘉山孝正 参与、山下英俊 医学部長及び根本建二 病院長が出席し、協定書の締結が行われました。

# 医療インバウン

平成28年度は、平成31年度に診療を開始する重粒子線がん治療を核とした医療イ  
そして自治体、経済団体や金融機関と組んでの山形大学医学部先端医療国際交



## 医療インバウンド推進のための 「山形大学医学部先端医療国際交流推進協議会」が設立されました。

平成28年9月12日、「次世代型重粒子線がん治療施設」を核とした地域振興及び経済活性化のため、「山形大学医学部先端医療国際交流推進協議会」が設立されました。

本協議会は、山形大学及び医学部をコアに、自治体、県医師会、経済団体、企業、金融機関並びに医療渡航支援企業の日本エマージェンシーアシスタンスなど20の会員から構成され、山形大学医学部次世代型重粒子線がん治療施設の情報発信、外国人を含む患者及びその家族等の受入支援、地域の産業・観光振興並びに雇用創出に関する事業を行うこととしています。また、本協議会の事業を通じて、参画者のネットワークを通じた地域の観光・山形大学重粒子線治療施設等の情報発信と誘客、山形県での食体験等を通じた地域物産品の海外輸出、雇用機会の拡大と医療従事者の地

域定着など、地域に貢献することも狙いとしています。

本協議会会長には、嘉山孝正 山形大学医学部参与、顧問には吉村美栄子山形県知事、佐藤孝弘山形市長が就任しました。今後、本協議会の下に、「重粒子線施設情宣・啓発部会」「インバウンド推進部会」「先端医療国際交流実施部会」の3つの専門部会を設置し、具体的な検討を進めることとしています。

嘉山会長からは、

「山形大学の重粒子線がん治療施設の設置について全力で進めていく」と決意表明があり、地域と一体となった医療インバウンド推進の取組として、今後の期待感が高まっています。



山形大学医学部先端医療国際交流推進協議会メンバー  
(写真前列中央:嘉山会長)



## 国際化対応の整備について

院内の国際化対応については、平成28年度から本格的に準備を開始し、実際に外国人患者を受入れるにあたっての課題を抽出し、対

応策を検討開始しました。平成29年2月には、附属病院の英語版ホームページを公開し、今後、中国語、ロシア語など多言語に対応した内

容に更新していく予定にしています。

平成29年4月からは、新たに欠畠教授を国際化担当副病院長に任命するとともに院内に国際化対応委員会を設置し、JIH(ジャパンインターナショナル ホスピタルズ)の認証、院内の英語掲示、文書の多言語化、外国人患者サービスなどの推進を進めていくことにしております。



## 災害訓練について



### 化学物質による災害発生時の被災者受入訓練を実施しました。

平成28年6月23日(木)、山形大学医学部附属病院において、化学物質による災害発生時の被災者受入訓練を実施しました。

生物化学剤等による特殊災害時の医療体制については、中核的医療機関の役割分担のもと、消防、警察、自衛隊、保健衛生行政部門等医療機関と連携し対策を講じることが有効として、平成15年6月に化学剤における災害対策は山形大学医学部附属病院を中心となつてチームを編成し対策を進めてきました。

平成24年11月に内閣官房、山形県及び山形市の主催による山形県国民保護共同訓練に参加しましたが、訓練参加から3年以上が経過したため、再度、全体の手順を確認するため今回の訓練開催を企画しました。

当日は、JR山形駅で化学剤が散布され多数の死傷者が発生したことを想定し、70名を

超える医師・看護師等が訓練に参加し、初動体制・指揮系統の確保、ゲートコントロール・除染、院内の情報伝達等の訓練を行いました。

なお、後日、本訓練に係る課題(初動体制、災害対策本部と現場の情報共有、必要物資等)を抽出し、災害発生時の医療体制を充実すべく対策を講じました。



院内の訓練の様子



ゲートコントロールの様子

### 大地震を想定しトリアージ訓練を実施しました。

平成28年9月15日(木)、山形大学医学部附属病院にて防災訓練を実施しました。

山形大学医学部附属病院は、地域における

防災の拠点として、地域のみなさまに安心していただくために、年2回の防災訓練や化学物質による災害発生時の被災者受入訓練など様々な災害対策を行っています。

今回の防災訓練では、4月14日に発生した熊本地震による大災害を想定し、通常の防災訓練に加え、医師、看護師、事務及び医学科1年生(負傷者・介添役)の総勢150名によるトリアージ訓練を実施しました。トリアージ訓練は、これまでにも実施しておりましたが、こ

のように大規模に実施するのは初めてのことです。これは、医学科1年生に、医療の原点である救急医療の重要性を早期に理解してもらうことを狙いとしています。

当日は、ムラージュ(仮装負傷)した患者役の学生に対し、医師が迅速にトリアージ(負傷者を傷病の緊急性・重傷度に応じて分類)を行いました。

なお、同日に、国立大学病院間で行っている災害対策相互訪問事業も行われ、東北大学病院の災害対策担当者による査察を受けました。東北大学の担当者からは、「災害対策マニュアルは平成28年2月16日に全面改定が行われ、あらゆる状況を想定した網羅的な内容となっており、高く評価できる」など、総じて良好な災害対策が実施されているとの評価を受けました。



訓練の様子

## 病院 ボランティアについて



本院における病院ボランティアについて、従来からの外来ボランティア（受付付近での援助、診療科や検査室へのご案内、自動再来受付機や自動精算機の操作説明など）に加え、この春から「緑のボランティア（病院の花壇などの手入れを行い、病院を訪れた人に安らぎを与えるお手伝い）」や「本のボランティア（病院1階にある飯田文庫の本の整理整頓などを行い、利用者が快適に使える空間のお手伝い）」の活動も開始します。

そこで、これを機にボランティア活動に従事していただく方々のさらなる士気の向上をはかるため、昨年末に病院ボランティアのロゴマークを公募した結果、このたび上記のとおり決定しましたので、お知らせします。

今後、病院ボランティアの方々の活動着や活動員証などに掲載していくきます。



## 山形大学医学部 さくら植樹事業について



目録贈呈の様子(中央が山形新聞社寒河江社長)

山形新聞創刊140周年記念  
事業の一環として、平成28年10月24日（月）、山形大学医学部第一会議室において山形新聞社から本学部へ桜の苗木が贈呈さ

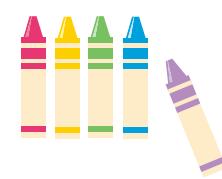


がん研究センター付近での植樹の様子



クラなどの桜の苗木100本の贈呈に係る目録をいただきました。  
また、同年11月28日（月）に山形大学医学部敷地内においてさくらの植樹式を行いました。今後とも、緑溢れるキャンパス環境の整備を目指していきます。

## 山形大学医学部病児保育室を新設しました。



病児保育室には子ども用ベッド3床を備え、感染症の罹患が疑われる場合等は経過観察ができるように個室も備えております。



病児保育室の様子

【問い合わせ】山形大学医学部病児保育室 Tel 023-628-5974 Fax 023-628-5969  
<http://www.id.yamagata-u.ac.jp/byouji/index.html>

# 人事往来

28.4.1	内科学第三講座 助教 大泉 俊英	昇任 第三内科 講師
28.4.1	産科婦人科学講座 助教 太田 剛	昇任 産科婦人科 講師
28.4.1	看護部 副看護部長 斎藤 律子	昇任 看護部 看護部長
<hr/>		
28.9.30	解剖学第二講座 准教授 八月朔日泰和	退職 (秋田大学へ)
28.9.30	内科学第三講座 准教授 川並 透	退職 (国立病院機構山形病院へ)
<hr/>		
28.10.1	解剖学第二講座 助教 中野 知之	昇任 解剖学第二講座 准教授
28.10.1	第三内科 講師 荒若 繁樹	昇任 内科学第三講座 准教授
28.10.1	内科学第三講座 助教 諏佐 真治	昇任 第三内科 講師
28.10.31	高次脳機能障害学講座 講師 斎藤 尚宏	退職 (開業へ)
<hr/>		
28.11.1	高次脳機能障害学講座 助教 伊関 千書	昇任 高次脳機能障害学講座 講師
<hr/>		
29.3.1	内科学第二講座 准教授 斎藤 貴史	昇任 看護学科 教授
29.3.31	分子病態学講座 教授 一瀬 白帝	定年退職
29.3.31	看護学科 教授 大谷 和子	定年退職
29.3.31	内科学第三講座 教授 加藤 丈夫	退職 (山形市保健所へ)
29.3.31	画像医学講座 教授 細矢 貴亮	退職 (山形県立中央病院へ)
29.3.31	内科学第三講座 准教授 荒若 繁樹	退職 (大阪医科大学へ)
29.3.31	腎泌尿器外科学講座 准教授 長岡 明	退職 (米沢市立病院へ)
29.3.31	画像医学講座 准教授 菅井 幸雄	退職 (至誠堂総合病院へ)
29.3.31	第三内科 講師 大泉 俊英	退職 (山形済生病院へ)
29.3.31	整形外科 講師 土屋 登嗣	退職 (公立高畠病院へ)
29.3.31	耳鼻咽喉科 講師 那須 隆	退職 (山形市立病院済生館へ)
29.3.31	産科婦人科学講座 講師 高橋 一広	退職 (開業へ)
29.3.31	検査部 臨床検査技師長 渡辺 俊夫	定年退職
<hr/>		
29.4.1	整形外科学講座 准教授 橋本 淳一	昇任 医師GRM 教授
29.4.1	看護学科 准教授 松田 友美	昇任 看護学科 教授
29.4.1	第二内科 講師 阿部 靖彦	昇任 光学医療診療部 准教授
29.4.1	第三内科 講師 諏佐 真治	昇任 内科学第三講座 准教授
29.4.1	泌尿器科 講師 加藤 智幸	昇任 腎泌尿器外科学講座 准教授
29.4.1	放射線診断科 講師 鹿戸 将史	昇任 放射線医学講座 准教授
29.4.1	産科婦人科 講師 堤 誠司	昇任 産科婦人科学講座 准教授
29.4.1	内科学第三講座 助教 小山 信吾	昇任 第三内科 講師
29.4.1	内科学第三講座 助教 亀田 亘	昇任 第三内科 講師
29.4.1	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 助教 野田 大介	昇任 耳鼻咽喉科 講師
29.4.1	耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座 助教 阿部 靖弘	昇任 耳鼻咽喉科 講師
29.4.1	産科婦人科学講座 助教 川越 淳	昇任 産科婦人科 講師
29.4.1	第二内科 助教 安藤 嘉章	昇任 第二内科 講師
29.4.1	検査部 副臨床検査技師長 白田 亨	昇任 検査部 臨床検査技師長
29.4.1	光学医療診療部 准教授 牧野 直彦	配置換 内科学第二講座 准教授

## 学会賞等受賞

Congratulations

山下 英俊 眼科学講座 第120回日本眼科学会総会 感謝状	平成28年4月
成田 淳 整形外科学講座 第113回東北整形災害外科学会学術集会 Most Downloaded Article Award	平成28年6月
高橋 俊二 輸血・細胞治療部 山形県臨床検査技師会功労賞	平成28年6月
渡辺 俊夫 検査部 山形県臨床検査技師会功労賞	平成28年6月
平田 美智子 検査部 山形県臨床検査技師会功労賞	平成28年6月
野澤 瞳 第二内科 日本消化器病学会東北支部第201回例会 優秀演題賞	平成28年7月
土田 秀元 第二内科 第157回日本消化器内視鏡学会東北支部例会 優秀演題賞	平成28年7月
小野寺 悠 麻酔科学講座 第38回日本呼吸療法医学会学術集会 Best Presentation Award	平成28年7月
安藤 嘉章 第二内科 2015年日本胆道学会賞	平成28年9月
榎 宏諭 産科婦人科 第64回北日本産科婦人科学会 優秀演題賞	平成28年9月
竹原 功 産科婦人科 第64回北日本産科婦人科学会 優秀演題賞	平成28年9月
加藤 博久 第二外科 2016 Master of Thoracic Surgery Uniportal Vats Lobectomy & Vats Segmentectomy Video Contest Award of Great Potential	平成28年11月
濱田 順 第二外科 2016 Master of Thoracic Surgery Uniportal Vats Lobectomy & Vats Segmentectomy Video Contest Award of Great Potential	平成28年11月
本間 拓二郎 生化学・分子生物学講座 18th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research International Young Investigator Award 2016	平成28年11月
樋口 あすみ 検査部 第37回山形県医学検査学会 学会学術賞	平成28年11月
佐藤 慎哉 総合医学教育センター JCOG 下山正徳賞	平成28年12月
西塚 弘一 眼科 第55回日本網膜硝子体学会総会 優秀演題	平成28年12月
野澤 瞳 第二内科 第158回日本消化器内視鏡学会東北支部例会 優秀演題賞	平成29年2月
渡部 貴大 第二内科 第158回日本消化器内視鏡学会東北支部例会 優秀演題賞	平成29年2月
渡部 貴大 第二内科 日本消化器病学会東北支部第202回例会 優秀演題賞	平成29年2月
鈴木 裕也 第二内科 日本消化器病学会東北支部第202回例会 優秀演題賞	平成29年2月

※所属については、受賞時のものである。

## 編集後記

病院ニュース「Health & Safety」第27号をお届けします。

今回は、本院へのキャンサートリートメントボード導入10年目ということで、記念シンポジウム、現況及びDVD作成についてご紹介させていただきました。キャンサーーボード推進のために作成したDVDは、5月中旬に全国のがん診療連携拠点病院に送付いたしました。各医療機関でのキャンサーーボード推進の一助になればと思います。

今後とも、より安心・安全な医療の提供に務めて参りますので、よろしくお願いいたします。

病院ニュース編集担当 総務課庶務

Editorial Note

